

総合的な学習における対比・演繹・検証による考える力の育成

長野県上水内郡信濃町立信濃中学校

かとうよしあき
加藤好章

【実践の内容】

本校では、総合的な学習の時間において、「個人追求テーマを設定し、自ら体験、調査活動を行い、その追求の成果をプレゼンテーションレポートにまとめるという力」や「人、もの、文化、自然との関わりを深め、ともに高めあい支えあって生きようとする態度」を育てることをねらいとして、「〈地域探訪〉〈職業体験〉〈修学旅行〉〈私たちにできること〉といった一連の題材を組んでいる。

本研究においては、生徒に自分の考えを創出する力を育成するために、追求の過程で生徒に対比・演繹・検証の課題を課し、生徒が自分の考えを創出する様相をとらえ、指導の工夫の分析を行った。

【論文内容の紹介】

1 研究の背景と目的

国内外の学力調査の結果などから、我国の生徒の読解力の低さが浮き彫りになった。本研究では、PISA調査をもとに、読解力を「情報を活用する力」や「自分の考えを創出する力」ととらえ、総合的な学習において、生徒に「自分の考えを創出する力」を育成するための指導の工夫を明らかにした。

2 A生の「自分の考えを創出する力」の様相

中学1年の初めての総合的な学習でのA生の様相は、わかったこと、知ったこと、自分がしてみたいことなどを「自分の考え」としてまとめていた。また、「〈地域探訪〉学習での様相は、調査、体験先で聞いた話やそこで得た資料などを引用しまとめたものを「自分

の考え」としていた。

3 対比による自分の考えの創出

中学2年の〈職業体験〉学習で、「自分が追求した職種と級友が追求した職種とを比較して自分のことをまとめよ」という課題を課した。この課題に対してA生は、自ら新たな問いをつくり、対比した2つの考えを1つに統合して新しい考えを創出した。また、「自分の考えを創出」することのよさを感得する姿が見られた。

4 演繹による自分の考えの創出

中学3年の〈修学旅行〉学習で、「結論がどのような根拠から導かれたのかを明らかにせよ」という課題を課した。この課題に対してA生は、豊富な情報の中から必要な情報を取捨選択し、体験・調査活動を根拠にして結論を導出し、自分の考えを創出した。

5 検証による自分の考えの創出

中学3年では、環境、福祉、健康、平和等について〈私たちにできること〉という学習に取り組み、「1度まとめた結論が実行可能なかどうか、どういう効果があるのかを検証せよ」という課題を課した。この課題に対してA生は、自分の結論を検証し、十分な効果が得られていないことを知り、改めて自分の追求過程を振り返り、どこに問題があったのかを分析し、修正した結論を導出し、自分の考えを創出した。

6 研究の総括

A生以外の生徒の様相から、対比や演繹による自分の考えの創出は徐々に高まりが見られた。中学3年の後半では、大半の生徒が演繹による自分の考えを創出する力を身につけており、2つの指導の工夫は有効であったと考える。しかし、個人追求テーマが漠然としている、結論に具体性が欠けるといった生徒も若干おり、指導の改善として、追求内容が内包されたテーマを設定する、どのような仮定から結論の導出されたのかを明確にする等の示唆が得られた。